

支え合い

豊岡中学校 三年 柴田 菜月

「相続税ってどういうものなのだろう。」

曾祖母が亡くなった時、祖母がぽつりとつぶやいた一言が私の耳に残りました。その時私は相続税という言葉をただ漠然とした気持ちで聞いていました。

後日私は相続税について調べてみました。気になることがあったからです。その結果およそ五年前から基礎控除額、簡単に言うと相続財産が一定の金額以下であれば相続税がかからない「非課税枠」が引き下げられたことにより、身近な税金になったのだと分かりました。特に高齢者は貯蓄率が高い傾向にあるため、知らず知らずのうちその対象になっている可能性があることにも気付きました。すると今度は「なぜ税金で支払う必要があるのだろう。」という疑問が頭をよぎりました。そこで私は自分なりに税制について掘り下げて調べてみました。

その結果、非課税枠が引き下げられる代わりに、例えば非課税で贈与できる制度が設けられる等別の恩恵があることを知りました。

今私が思うことは資産をスムーズに次の世代にシフトできるような税制が必要なのではないかということです。その背景には私たち若い世代には今後、例えば消費税増税や社会保険料の上昇、さらにアルバイトの増加など以前とは異なる課題があると感じているからです。

最近私は祖母と相続税について話をしています。祖母も初めのうちは、

「税金は国民の義務だからね。」

と言っていました。私が税金の存在意義を話していくうちにいつしか

「お互い様なんだね。私も周りの人に思いを巡らせる心のゆとりを持たないよね。」

と言ってくれ、とても嬉しくなりました。祖母も税金があるからこそ祖父の病気の時にも十分な治療が受けられたのだと感じているようでした。祖母の心は確かに変化したのだと思います。私の心の中にも温かい思いが広がっていました。

今回私は税について学ぶにつれ、例えば相続税という言葉に当初抱いていた、心のわだかまる疑問のようなものは自然となくなりました。そして同時にもう一つ大切なことに気付きました。それは世界的に見て日本は様々な意味で恵まれている、豊かな国であるということです。その中で独り占めをせずみんなで分かち合う、ひがむのではなくお互いに支え合うことに目を向けたなら、どんなに素敵な社会になるのだろうかと思います。多くの人には伝えられなくても、身近な人にだけでも税金の価値を理解してもらえよう。今後も心掛けていきたいと思えます。